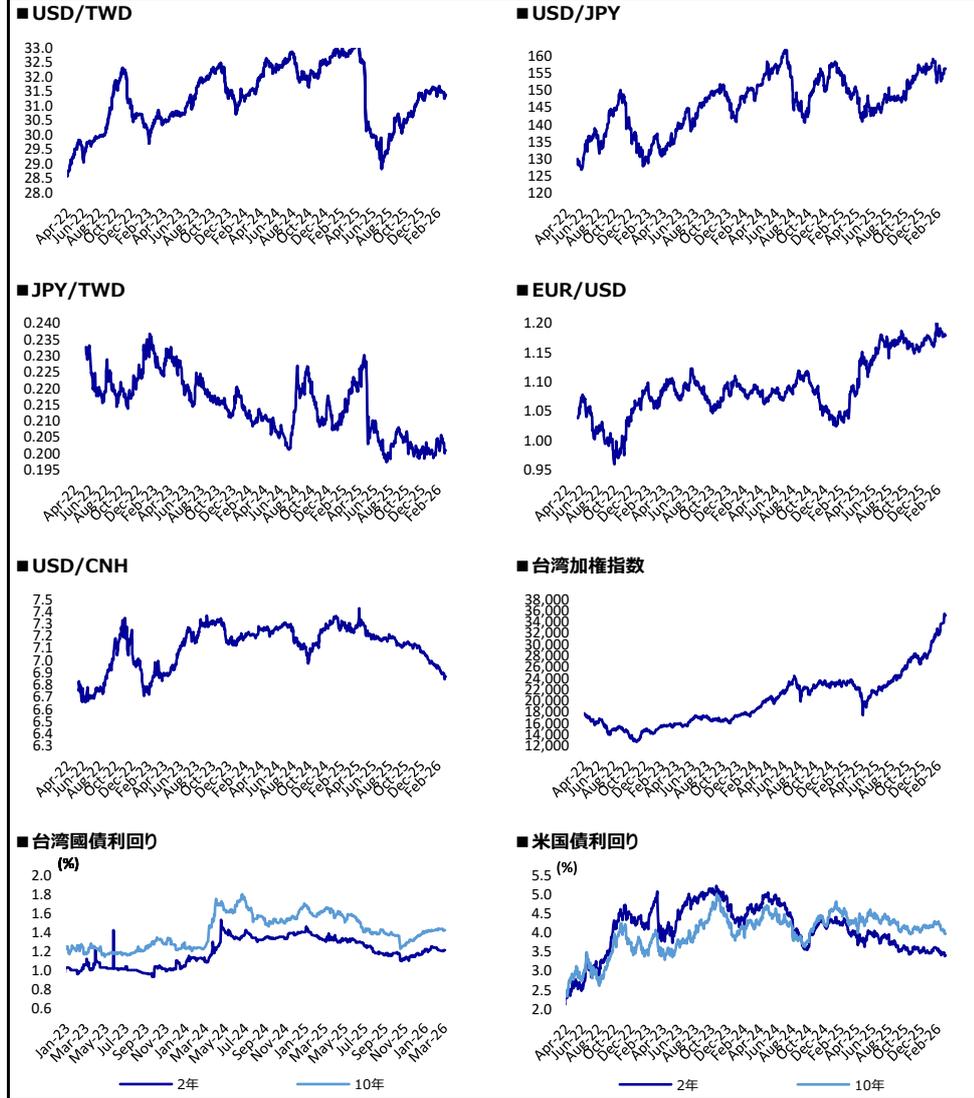


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD  
先週のUSD/TWDは下落展開。週初23日、31.500でオープン後、春節明けの台湾株は上昇した一方、輸出企業のドル売りで外資による台湾ドル買いが進み、一時31.417まで下落。午後、輸入企業がドル買いに入ったことで、下落幅は抑えられ、31.462で終了。24日、台湾株の大幅な上昇を受け、輸出企業のドル売りが強まる中も、輸入企業によるドル買いも積極的に進み、31.450付近でもみ合った。午後、外資による資金流入が加速する事で台湾ドルの下支えとなり、一時31.418まで下落も、生保や輸入企業によるドルの押し目買いが入り、31.461で終了。25日、連日の台湾株の大幅な上昇に伴い、外資の買い越しが強まったことが台湾ドルを支え、31.300半ばでもみ合った。午後、一時31.302まで下落も、生保や輸入企業によるドルの押し目買い及び中銀の調節が入ったことで回復し、31.340で終了。26日、アジア通貨の堅調に伴い、弱含み展開となり、31.200台でもみ合い。午後、台湾株が横ばいで引けたことにもかかわらず、外資による資金流入が強まったことが台湾ドルを支え、一時31.202まで下落も、生保や中銀のドル買いが入ったことで下げ幅が抑えられ、最終的に31.251、前週比0.85%安でクローズ。先週、海外投資家は台湾株を1016.7億台湾ドル買い越した。

■ USD/JPY  
先週のUSD/JPYは上昇展開。週初23日、154.85でオープン。米IEEPA関税違憲判決を受けてドル売りが加速し、一時週安値となる154円ちょうどまで下げ幅を拡大。海外時間は、154円台半ばを中心にレンジ推移した。24日、155円台前半へじり高に推移。海外時間は、日銀金融政策を巡る報道を受けた円売りが支えとなり、一時156円台に乗せ堅調に推移した。25日、トランプ米大統領による一般教書演説を受けて155円台前半に軟化も、日銀人事関連報道を受けて一時156円台へ急伸。海外時間は、日銀人事を巡る円売りが再開し、一時週高値となる156.82円に上昇後は米金利低下が重しとなり軟調に推移。26日、日銀高官のタカ派スタンスが意識され、一時156円を割り込む展開。海外時間は、中東情勢への懸念から動意に乏しく、156円ちょうど付近の取引に終始。27日、155円台半ばまで下落。海外時間には米経済指標の予想を上回る結果を受け156円台を回復。最終的に156.05、前週比0.66%高でクローズ。

■ USD/TWD 予想レンジ：31.100-31.600  
今週のUSD/TWDはレンジ内でのみみ合いを予想。地政学リスクの高まりや原油価格の上昇を受け、市場のリスク回避姿勢が強まり、株式市場の資金フローや中銀の動向に注目。

■ USD/JPY 予想レンジ：154.00-158.00  
今週のUSD/JPYは横ばいを予想。米国とイスラエルがイラン攻撃を実施し、地政学リスクや原油高の圧力が背景にある。また、3月2日に日銀の永見野副総裁の講演や今週米2月の非農業部門雇用者数の発表を控え、市場は様子見姿勢を維持する見通し。

今週の予定

3/2 (MON)	米2月製造業PMI
3/3 (TUE)	日本1月失業率
3/4 (WED)	台湾1月輸出受注、米2月ADP雇用者数
3/5 (THU)	台湾1月鉱工業生産指数、米1月輸入物価指数
3/6 (FRI)	台湾2月CPI、米1月小売売上高・2月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。